

# 令和元年度 事業会計決算報告

## 芦屋病院事業

問い合わせ 芦屋病院 ☎31-2156



令和元年度は、入院患者数63,539人と前年度より2,499人減少、外来患者数81,995人と前年度より3,567人減少しました。

経営状況については、病院事業収益53億577万円、病院事業費用は53億6,722万円で、差し引き6,145万円の純損失(前年度1億7,317万円)となり、累積欠損金は122億1,690万円となりました。

概況としては、「市立芦屋病院新改革プラン」の3年目を迎え、計画目標の達成に向けて、経営改善に取り組んできました。

具体的には、きめ細やかな相談支援を行うため、入退院支援センターを開設、また、改元に伴い10連休となったゴールデンウィークに



CT撮影装置

は、長期の休診による影響を避けるため、4月30日と5月2日に通常通り外来診療、入院手術等を行いました。

診療機能の充実では、CT撮影装置等の医療機器を更新し、最新機能を保有する機器を整備しました。

|        |         | 令和元年度       | 平成30年度      | 増減         |
|--------|---------|-------------|-------------|------------|
| 入院     | 延べ患者数   | 63,539人     | 66,038人     | △2,499人    |
|        | 一日平均患者数 | 173.6人      | 180.9人      | △7.3人      |
|        | 病床稼働率   | 87.2%       | 90.9%       | △3.7%      |
| 外来     | 延べ患者数   | 81,995人     | 85,562人     | △3,567人    |
|        | 一日平均患者数 | 338.8人      | 350.7人      | △11.9人     |
|        | 診療日数    | 242日        | 244日        | △2日        |
| 病院事業収益 |         | 53億577万円    | 53億4,008万円  | △3,431万円   |
| 病院事業費用 |         | 53億6,722万円  | 55億1,325万円  | △1億4,603万円 |
| 純損益    |         | △6,145万円    | △1億7,317万円  | 1億1,172万円  |
| 累積欠損金  |         | 122億1,690万円 | 121億5,545万円 | 6,145万円    |

業務運営コストの削減では、ジェネリック医薬品の使用率で、引き続き、国が定める数量シェア目標を上回りました。また、診療材料費や薬品費など、材料費等の納入価格の削減に努めました。

これらのことから、昨年度と比べて、入院・外来患者数が減少しましたが、入院単価・外来単価の増加により、営業収益は前年度とほぼ同額の収益となり、昨年度に引き続き、純損失を大幅に縮減する結果となりました。

## 水道事業

令和元年度の給水人口は、94,177人で前年度より45人減少し、一人一日当たりの使用水量は、2ℓ減少し293ℓとなったため、料金収入となる有収水量は93千 $m^3$ (0.9%)減少して10,065千 $m^3$ になりました。事業収益は、給水収益や受託工事収益の減少などにより1億4,371万円(6.3%)減少して21億2,286万円となりました。

一方、事業費用は、人件費、物件費等の減少により1億1,862万円(6.0%)減少の18億6,690万円で、差引収支は2億5,596万円の純利益となりました。

しかし、人口減少や節水機器の普及などによる収入減少が、今後見込まれる中、老朽管の更新工事などを控え水道事業を取り巻く経営環境は厳しい状況です。

本市水道事業では、「芦屋市水道ビジョン改訂版」、「芦屋市経営戦略」のもと運営を行い、計画的に老朽管の更新、施設の耐震化を進めていきます。令和元年度は令和2年度から着手する低区配水池耐震化工事に向けた設計業務を行いました。

引き続き、安心・安全な「おいしい水」を持続して供給します。



GX管(100年耐用の耐震管)布設工事(岩園町)

|        | 令和元年度            | 平成30年度           | 増減             |
|--------|------------------|------------------|----------------|
| 給水人口   | 94,177人          | 94,222人          | △45人           |
| 総配水量   | 10,395,351 $m^3$ | 10,688,327 $m^3$ | △292,976 $m^3$ |
| 自己水量   | 1,167,991 $m^3$  | 1,314,047 $m^3$  | △146,056 $m^3$ |
| 阪水受水量  | 9,227,360 $m^3$  | 9,374,280 $m^3$  | △146,920 $m^3$ |
| 有収水量   | 10,064,993 $m^3$ | 10,157,629 $m^3$ | △92,636 $m^3$  |
| 有収率    | 96.82%           | 95.03%           | 1.79%          |
| 水道事業収益 | 21億2,286万円       | 22億6,657万円       | △1億4,371万円     |
| 水道事業費用 | 18億6,690万円       | 19億8,552万円       | △1億1,862万円     |
| 純損益    | 2億5,596万円        | 2億8,105万円        | △2,509万円       |

総配水量:1年間に芦屋市内へ配水した水の量  
自己水量:芦屋市の浄水場でつくられた水の量  
阪水受水量:阪神水道企業団から供給された水の量  
有収水量:総配水量のうち料金徴収の対象となった水の量  
有収率:総配水量に占める有収水量の割合



問い合わせ 水道管理課 ☎38-2080

## 下水道事業

令和元年度の事業収益は31億5,637万円、事業費用は26億8,845万円で4億6,792万円の純利益となりました。企業会計移行初年度に引き続き黒字を確保できましたが、今後は人口減少や



1人当たりの排水量の減少が予想され、それに伴い下水道使用料収益も減少することや老朽管の更新、自然災害に備えるための施設整備等の費用が増加する中で経営は厳しい状況にあります。

事業面においては、雨水管渠整備工事や老朽管渠更新工事を行いました。これにより、下水道管渠の耐震化率は23.2%になり、前年度より0.4%上昇しました。

また、場内ポンプ場脱臭設備工事により施設の機能保全に努め、大東および南宮ポンプ場の耐震補強工事も実施しました。経営戦略及び下水道ストックマネジメント計画を活用して、効率的な維持管理のもとで安定した経営に努めるとともに安心して暮らせる下水道事業の運営を目指していきます。

|         | 令和元年度            | 平成30年度           | 増減            |
|---------|------------------|------------------|---------------|
| 処理区域内人口 | 95,443人          | 95,488人          | △45人          |
| 汚水処理量   | 14,946,163 $m^3$ | 14,926,319 $m^3$ | 19,844 $m^3$  |
| 有収水量    | 10,461,311 $m^3$ | 10,544,060 $m^3$ | △82,749 $m^3$ |
| 経費回収率   | 108.21%          | 110.56%          | △2.35%        |
| 汚水処理原価  | 84.31円/ $m^3$    | 83.43円/ $m^3$    | 0.88円/ $m^3$  |
| 下水道事業収益 | 31億5,637万円       | 30億3,064万円       | 1億2,573万円     |
| 下水道事業費用 | 26億8,845万円       | 27億3,167万円       | △4,322万円      |
| 純損益     | 4億6,792万円        | 2億9,897万円        | 1億6,895万円     |

有収水量:下水道使用料徴収の対象となる水量  
経費回収率:下水道使用料/汚水処理費×100  
汚水処理原価:汚水処理費/有収水量×100



問い合わせ 下水道課 ☎38-2064